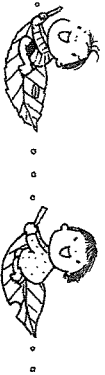


いずみのひろば



「4千人にパンを与える」

マルコによる福音書8章1節～10節

少し前に教会学校で、イエスさまが5つのパンと2ひきの魚を用いて5000人の人たちのお腹をいっぱいにしてくださいましたというお話を読みました。

「ここに来ているみなさんはそのお話を覚えていらっしゃるかな？」

「そんな話あったかな？って忘れていませんか？」

今日のお話 もそれとよく似たお話です。前回のお話（マルコによる福音書6章30節～44節）との違いを見ながら今日のみことばに聞きたいと思えます。

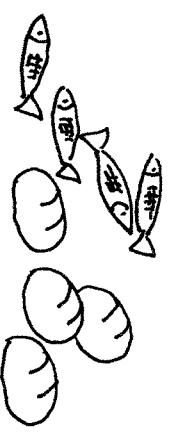
まず、数の違いです。

人の数、前回のお話では5000人でした。今回は4000人です。

パンの数は、前回は5つ、今回は7つ

魚の数は、前回は2ひき、今回は少し

集めたかごの数は、前回は12、今回は7つ



数の違いだけではありません。前回とは場所が違います。

今回はデカポリス地方というユダヤ人ではない異邦人（外国人）がたくさんいる土地にいたのです。ですから、イエスさまのもとにいた群衆の中に前回とは違う外国人がたくさんいたのだと思われれます。

その他にも違いがあります。前回のお話では、最初に弟子たちが群衆の食べ物と心配して、イエスさまに相談しました。今回は最初にイエスさまが人々の食べ物と心配をなさってくださいました。

どうでしょう？イエスさまの奇跡のお話は、いずれにしてもイエスさまが人々の疲れや空腹をご自身の痛みとされました。

大切なことは、イエスさまが奇跡の出来事を通して神様の恵みを与えてくださり、イエスさまの愛を教えてくださいましたこと。イエスさまは、ご自分を命のパンとして人々に分け与えてくださいました。その恵みは豊かに満ちあふれています。

（お話 林部 弘）

